

終戦の記録と記憶を次世代へ・・・！

霞ヶ浦駐屯地・資料館「広報センター」で学ぶ自衛隊の歴史！



◆PKO派遣のイラクで活躍した空中監視装置・ラジコンヘリも展示されています。

また一つ、「霞ヶ浦駐屯地」に足を運ぶ楽しみが増えました！

先に開催された恒例の「開設64周年記念行事」については、既に「みりば」7月号で紹介済みですが、その当日、取材としては初めて「広報センター」（資料館）を覗かせて頂き貴重な体験をして来ましたので、ここに改めてご紹介させて頂きたいと思います。

ファンの方なら一度は覗かれた事と思います。私も公開イベントの度にプライベートで資料館を見学させて頂いています。一見何処の資料館もこじんまりとした質素な建屋で、歴史を感じる地味な存在が通り相場です。

しかし、今回ここで紹介する霞ヶ浦の資料館「広報C」は、併設館としては見るからに斬新で、その上、館内は広々としたスペースが取られ、展示資料も豊富な2階

建ての施設です。

私も撮影の許可を得て、早速館内を隈なく見て廻りましたが、流石は年に一度の一大イベント当日です。担当広報に聞くと、この日はかなり何時に無く観覧者も多く、人混み状態が続く程の好評ぶりとか。付け加え、普段もこうあってくれれば「との事でした。

言われて見れば、確かに年々資料館の存在意義や自衛隊創設の経緯を知ろうと云う意識が薄れつつあるのも事実です。

そこで霞ヶ浦「広報C」の紹介を機に、改めてその価値観と自衛隊創設の歴史の経緯を知って貰おうと、敢えて「終戦記念日」を迎える8月号に別枠を組んだと云う訳です。そもそも資料館とは、各部隊にゆかり有る品々や歴史的資料を展示し、広く一般に公開して地域社会の理解を深め、伝統を継承していこうと云う、言わば広報活動の拠点的役割を担っている重要な施設なのです。

幸か不幸か、日本は敗戦によって占領軍の統治下に置かれ、旧軍の施設を接収されたり貴重な資料迄も没収されてしまいました。

その上、復興の混乱と朝鮮戦争勃発の最中に、「警察予備隊」が設立され、民意の反映無きまま更に拡充を図り、「保安隊」を経て自衛隊への移行と云う、当に波乱の経緯を辿らざるを得なかったのです。つまり、資料館には没収を免れた秘藏品や自衛隊創設の経緯

◆野外展示

◆自衛隊装備品の展示施設です。74式戦車や74式自走榴弾砲、大型輸送ヘリのV-107や、汎用ヘリUH-1H等計17点が所狭しと展示されています。往年の方々には当時をしのぶ装備品の数々は見応えのある展示品です。

